

レースっていいよね  
第30回 「元気をください」の巻

突然ではあるが、お気付きかもしれないが、私は楽観主義である。

予測不可能な出来事にも、失敗にも「とりあえずは何とかなるさ」と思っている。以前はそうでもなかった。どちらかと言えば、追い込まれるとパニックの方だった。それが年を追う毎に益々ふてぶてしく!? 随分したたかになってきたな、と我ながら逞しく思う。

旅情編でルノーのシフトが分からなくて「頭が真っ白になった」とは書いたが、実はそんな境遇の自分を楽しんでいたのは事実だ。「これは笑い話になるぞ・・・」と。

さて、そんな私だが実はここ数週間元気が無かった。サラリーマンという立場を離れ、はや3ヶ月が過ぎた。実際、この自由な時間を有意義に使っているのは確かだが、さすがに少しばかり焦りの色も隠せない。

今は立派な失業者として、保険生活を悠々自適に送っているものの、この収入はあと2ヶ月で無くなる。金銭的な見通しが立たない上に、鈴鹿のレース村では寒風が絶好調に吹き荒れている。国内有数のコンストラクターFRDの撤退、某F・レーシングの撤退。耳に入る噂話は悲しいかな暗いものが多い。

そんな中で、自分の今後は・・・と考えると、どうしてもマイナスイメージしか沸いてこなかった。

そして、つい先日エフワン日本GPを観た後、鈴鹿で同業の長沢さんと飲んだ。このヒトについてはいずれこのコーナーで書くことになると思うけど、いい年して、とにかくバイタリティーのある人である。レース屋としては勿論だけど、それ以上に人間として尊敬できる、数少ない人だと思う。

この長沢さんと一緒にいると訳も無く楽しく、気持ちが良い。あけすけに人の悪口は言うし、下品だし、声デカイし、でも、口は悪くても既成概念に捕らわれず、「良い物は良い、悪い物は悪い」とハッキリ言ってくれる。この楽しい時間を過ごしたお陰で、随分気が楽になった。

数日後、クルマを運転中に、ラジオからある音楽が流れてきた。UNDERWORLD の「Born Slippy」という曲である。以前「トレイン・スポッティング」という映画で使われた曲だから、知っている人もいるだろう。

この曲は私にとって大変重要な曲である。あれは初めて一人で海外へ出掛けた時の話だ。それまでも海外旅行なんて、1度だけ社員旅行のグアムを経験しているのみだった。それが自分で全く初めてチケットを手配したり、現地の情報を集めたり、とにかく何もかもが初めてづくしで気の休まる時が無かった。

その行き先はオランダだ。というのも、その時期ウエストを巣立ってイギリスF3に参戦していた梁川選手を見たかったからである。

ちなみに、何故イギリスF3がオランダでやるのかを説明すると、毎年必ずイギリスF3のカレンダーに、ベルギーかオランダのどちらか1戦が組まれているのである。

オランダ、あなたはこの国を知っているだろうか？ 大抵、風車とチューリップのイメージしかないものだ。当時の私も、無論同じである。しかも、この国はオランダ語という独自の言語を持っている。もし片言でも英語が通じなかったら・・・。そう思うと、不安は増すばかりだった。

初めてのヨーロッパ、初めての国、初めての空港、初めての電車、初めての言語、加えてサーキットのある田舎町まで移動しなければならず、レース目的だけに行動する時間にも制約がある。当時の私は、行きは飛行機でかなり参っていた。「ホントに無事帰れるだろうか？」

そんな気分で過ごす機内で、唯一気分を落ち着かせてくれるのは「音楽」しか無かった。機内では大抵、その航空会社のヒットチャートなんかを繰り返し流している。

その中でとりわけ耳に残ったのが、先述の「Born Slippy」だったのである。しかも、オランダ滞在中にもホテルのMTVから幾度となくこのビデオクリップを見た。これらはまるで洗脳に近いものがあった。

曲の内容は決して意味深ではないが、このような背景もあって、この曲を聴くとあの当時の「追い込まれた自分」を思い出し、武者震いを起こす。この曲を聴いていた、あの時でさえ「何とかなつた」じゃないか、と。

以来、追い込まれても「余裕」に変える術を学んだ私は、ふてぶてしくなり、今では何のトラブルも無い方が、かえってつまらなく感じてしまう節がある。

さて、ラジオから偶然流れたこの1曲のお陰で、一気に気が晴れた。

漢字というのは面白いモノで、「元気」は「気の元」と書く。「気」とはまさに活動の原動力。私にとって自分の原動力となる人に会い、話をし、また音楽を聴くことは「元気」の補充をすることに他ならない。

何も焦る必要はない。自分にとって信じるままに、そして今を楽しく生きよう。だって、いつでも「何とかなる」んだから。

